

水土里ネットちば

Chiba Prefectural Federation of Land Improvement Association



棚田の雪景色（大山千枚田）

2012
WINTER

No.293

CONTENTS

口絵「東葛飾の冬景色」

新年のご挨拶「一刻も早い地域の再建を期待」	1
土地改良事業功労者の紹介	2
知事から感謝状を贈呈・栄町請方外七大字土地改良区 60周年記念	3
農地液状化対策の現地調査報告会の開催	4
府馬地区の体験学習	6
農地・水 事例紹介「海上地域環境保全会の取組み」	8
「農地・水保全管理支払交付金」について	10
ちば水土里ネット女性の会「東日本大震災 千葉県の農業施設被災地研修会に参加して」	12
年男あつまれ！ 新年の抱負	14
第15回「千葉の水回廊ウォーク&疏水百選 印旛沼ウォーク」のご案内	16

がんばろう！千葉



東葛飾の冬景色

平成24年1月の始め。

管内の県営ほ場整備実施地区から見られる景色を集めてみました。

この地域に暮らしている者からすれば見慣れている景色ですが。



千葉県最北端、スーパー堤防上に建設された関宿城博物館（野田市関宿三軒家）
【東葛北部Ⅱ期地区】



虚空に悠然と筑波山（茨城県）、
柏市新利根から【利根地区】



江戸川堤防（野田市今上）から
東京スカイツリー
【野田南部地区】



手賀沼南岸（柏市片山）から
手賀沼を間に我孫子市遠景
【手賀泉地区】



関東三弁天の一つ布施弁天（紅龍山布施弁天東海寺）利根地区の側に所在（柏市布施）。山号に龍が入るので今年の干支「辰」にふさわしい

新年のご挨拶

一刻も早い地域の再建を期待

水土里ネット千葉
千葉県土地改良事業団体連合会
会 長 菅 谷 健 一



謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。旧年中は本会の業務運営に会員の皆様をはじめ、関係各位のご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと3月の東日本大震災による大津波や、これに端を発した原子力発電所事故、更に9月には台風12号の集中豪雨による甚大な被害の発生等、正に大災害に見舞われた1年でありました。一方で明るいニュースといえはやはり、サッカーなでしこジャパンのワールドカップ制覇ではないでしょうか。中でも千葉県出身と千葉県内のチームに在籍する2名の選手が活躍し、県民栄誉賞を受賞されたことは誠に喜ばしい限りです。

さて、大震災は県内農業に甚大な被害を与え、大きな爪痕を残しました。

北東部の農地・農業用施設が被災し、液状化による地割れ・不陸、農業用排水路の損壊、更に集落排水施設の損壊等、2,353箇所、約165億円の被害を受けました。このような状況の中、全国水土里ネット東日本大震災対策本部から野中広務会長が訪れ、お見舞の言葉とともに、心温まる義援金を頂戴いたしました。聞くところによれば国内の土地改良関係者の方々はもとより、遠く台湾の皆様からの義援金も含まれているとのことで、心温まるご厚意に深く感謝申し上げる次第であります。お陰様で本格的な復旧工事が現在鋭意行われているところですが、皆様から頂戴した浄財は、復旧復興資金として有効に使わせていただきます。

さて、現下の農業農村を取り巻く環境は、担い手の減少や高齢化、耕作放棄地の増加、農産物価格の低迷による農家経営の圧迫など多くの課題を抱えております。歴史を翻してみれば、我が国の農業は、千数百年にわたり私たちの命を支える食料を安定的に供給してきました。我が国の農地や農業水利施設は、先人達の智恵と苦勞の結晶として、現在まで継承されてきたもので、私たちはこれらを将来に続く子孫に確実に渡していく責任があると思います。我が国も先般、TPP交渉の参加に向けて関係国との協議に入ることとなりましたが、このことにより我が国の農業農村が衰退することがあってはなりません。厳しい状況は今後も続くと思いますが、引き続き会員の皆様と固く手を結び、力を結集し努力してゆく所存であります。本年も関係機関のなご一層のご指導、ご支援をお願いいたしますとともに会員各位の益々のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げ新年のご挨拶とします。

土地改良事業功労者の紹介

「全国土地改良大会 in みやぎ」において、永年、土地改良事業に貢献した方々が表彰され、千葉県からは、天羽土地改良区の齋藤常務理事が農林水産省農村振興局長表彰を、また、香取市黒部川左岸土地改良区の平野理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞されましたので、お二人の功績を紹介させていただきます。

農林水産省農村振興局長表彰

天羽土地改良区
常務理事 齋藤 幸雄 氏



昭和44年10月天羽土地改良区設立のため、天羽町役場に臨時職員として勤務、昭和45年土地改良区設立と同時に職員として採用され、以降改良区事務の全般を担当されました。温厚篤実にして責任感強く、卓抜した見識と実行力があり、広く関係者の信望を得て、現在に至ります。

この間、県営かんがい排水事業を円滑かつ早期完成に導いたほか、経営基盤の弱い地域内6改良区の合併を成し遂げ土地改良区の体制強化に尽力しました。

現在では、昭和59年度から県営ほ場整備事業を全地域及び土地改良施設維持管理適正化事業も積極的に取り入れ、近代農業の確立に取り組んでおり、その功績は誠に顕著であります。

全国土地改良事業団体連合会長表彰

香取市黒部川左岸土地改良区
理事長 平野 英之 氏



昭和59年4月香取市黒部川左岸土地改良区総代に就任、また平成8年5月に副理事長に就任し、以来誠実にして責任感あり、広く関係者の信望を得て、平成15年5月に理事長に互選され現在に至ります。

この間、香取市市議会議員、香取郡市土地改良協会会長、千葉県土地改良事業団体連合会理事を歴任し、地域農業の発展のため尽力されました。土地改良区副理事長に就任以来、平成10年度に着工した県営かんがい排水事業黒部川左岸地区の早期完成に尽力され、平成18年度には、香取市東部土地改良区と合同事務所を建設し、経費削減に努力されています。平成19年度からの新規事業である農地・水・環境保全向上対策事業には、活動組織の会長として取り組み、地元農家に多大な貢献をしており、その功績は誠に顕著であります。



東日本大震災の災害対応に対し 千葉県知事から感謝状を贈呈されました



1月12日(木)、森田健作千葉県知事から千葉県土地改良事業団体連合会へ感謝状が贈呈されました。これは、2011年3月11日に発生した東日本大震災において、県内被災地での支援活動が評価され贈られたものです。

連合会では、東日本大震災の発生直後から被災現場に入り、専門的知見から災害対応の支援を積極的に行ってきました。

感謝状は、県内及び県外被災県に顕著な物的・人的支援を行った102の団体に対し贈られ、贈呈式には、菅谷健一会長が出席しました。

森田健作知事から「620万県民を代表して

心からお礼を申しあげます。震災を教訓として、しっかりした体制を整えなければなりません。皆さんのますますのご活躍を祈念いたします。」と感謝の言葉をいただきました。

今後も、連合会は被災地区の早期の復旧に向けた支援を全力で行ってまいります。

栄町請方外七大字土地改良区設立60周年記念式典を開催

去る11月26日、成田市内において請方外七大字土地改良区の設立60周年記念式典が開催されました。請方外七大字土地改良区の事業地域は千葉県の北部、利根川、将監川に囲まれた布鎌輪中中央部の田畑が受益地となっています。明治39年に請方外四大字耕地整理組合を設立し悪水排除を目的とするポンプを設置したことを最初とし、土地改良法の制定を機に、昭和27年3月に「請方外七大字土地改良区」が設立され、以来60年、用排水機場の新設、耕土の改良、パイプラインや暗渠排水の整備を行い、近代的な農業経営が展開されるようになりました。



発行された設立記念誌



木村伸男岩手大学名誉教授

当日は地元選出の国会議員、県議会議員をはじめ、千葉県農林水産部長、栄町町長及び議会議員ほか多くの方が出席されました。

記念式典は講演・式典・祝賀会により構成され、初めに木村伸男岩手大学名誉教授の記念講演「夢と志をもった明日の農業—水田を活かした農業経営を目指して—」がありました。



塩田理事長式辞

式典では塩田理事長が「当土地改良区は幾多の困難を乗り越えここに至っている。今後も活力ある農業を目指していきたい。」と式辞を述べられ、来賓の祝辞の後、永年にわたり土地改良事業の推進と農業農村の繁栄に尽力された67名に塩田理事長から感謝状・記念品が贈呈されました。祝賀会では、60年間にあった様々な出来事や苦労話などの懇談がありました。



地元組合員による踊り

また、地元の皆さんによる踊りなどが披露され記念式典は盛会のうちに終了しました。

農地液状化対策の現地調査

東日本大震災により、県内の農地・農業用施設も甚大な被害を受け、特に香取市、神崎町の利根川沿岸の農地等は、液状化が原因による水田の噴砂や用排水路等の破損が生じました。

千葉県では、農林水産部耕地課内に「農地液状化対策プロジェクトチーム」を設け、液状化による被害が甚大な地域において、将来の震災を考慮した復旧・復興に向けて、現地調査及び対策工法について検討を重ねてきました。

このたび、平成23年6月15日から16日の2日間にわたる現地調査の結果や今後の復旧方法等の方針に関する報告会を平成23年12月21日に開催しましたので、概要について報告します。

当日は、地元土地改良区をはじめとする関係機関等から約150名もの参加を頂き、発表の内容に対し、多くの方々から貴重なご意見を頂きました。報告会は2部形式で行い、第1部では、農地・農業用施設の被災状況や現地調査、復旧方法等の結果報告があり、第2部では、復旧工事後の営農に関して、震災による農業被害に対応して実施した試験研究や調査の情報提供を行いました。

始めに、森田農林水産部次長より、「県として、出来るだけ早く復旧・復興を目指し、関係市町村と連携を図り、新たな復興交付金事業を活用し、被災地域の農業復興を進めていきたい。」と挨拶がありました。



▲ 開会挨拶 森田農林水産部次長



▲ 関東農政局整備部 安楽次長

関東農政局整備部安楽次長からは、農政局管内の被災状況や復旧・復興に向けた国の動きとして復興交付金について説明がありました。

香取農業事務所横山部長からは、香取管内の被災状況や対応状況の説明があり、「大震災から9カ月が経過し、農地・農業用施設の復旧計画の見通しについて本年度中に発注する目途が経ちましたが、用水施設につい

ては通水・漏水の確認の工程を繰り返しながら進めるため、気が抜けない状況である」と現場で苦労された話が紹介されました。

農村工学研究所の中嶋上席研究員から液状化のメカニズムや液状化による農業水利施設の被害の原因

香取農業事務所 横山基盤整備部長 ▶



報告会の開催

農林水産部耕地課
農地液状化対策プロジェクトチーム

や復旧の考え方について解説がありました。また、若杉主任研究員から水田の液状化などの被害状況と被災した水田の復旧技術について説明がありました。

第1部の最後として、液状化対策プロジェクトチーム長である耕地課井上副技監より、6月15日から16日の現地調査の実施状況や結果報告を行い、田面や用排水路の復旧対策について報告がありました。

第2部では、農林総合研究センター林上席研究員より、液状化による砂噴出田での稲の生育について調査の結果、液状化により噴出した砂は、作物に酸性障害や塩類障害を引き起こさないが、地力低下による生育不良の一因になるので、堆肥等の土づくり資材を施用し、地力向上を図る必要があると成果報告がありました。



▲ 農村工学研究所 中嶋上席研究員



▲ 農村工学研究所 若杉主任研究員



▲ 液状化プロジェクトチーム長
農林水産部耕地課 井上副技監

農林総合研究センター西川上席研究員より、機場やパイプラインの損傷による用水の送水の遅れによって水稻の移植時期が5月下旬から6月下旬にずれ込む晩植栽培における技術情報について報告がありました。

香取農業事務所高木上席普及指導員より、砂が噴出した水田及び遅植えの水稻生育調査等の現地活動から見た水稻栽培の留意点について報告がありました。

最後に、発表いただいた皆さん、参加された皆さんに、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



▲ 報告会会場の様子



府馬地区の体験学習

香取市府馬地区(経営体育成基盤整備事業)についてご紹介します。

この事業は平成21年度に採択、調査設計、換地を行い、22年度から区画整理工事が着工となり75ヘクタール実施、本年度は工事2年目を迎えようやく順調に推移してきたところです。



事業については、後述とし今回のイベントについて紹介します。

12月15日に香取市立府馬小学校、八都(やつ)小学校の6年生54名を招き、「府馬区画整理工事体験学習」を開催したところ、大好評の中実施することができました。

昨年は生き物調査として、香取市立府馬小学校4年生を招き、いろいろな小魚、ザリガニなど捕まえたところですが、今回の企画は、府馬区画整理工事連絡調整会の発案で、工事業者9社が実施し、香取市東部土地改良区府馬工区、香取農業事務所が協賛しての開催となりました。

開校式では、最初に工事業者代表から田んぼの工事について説明があり、「皆さんも大きくなったらこんな仕事もありますので、是非、地元で担っていただき、そのきっかけになれば。」と挨拶があり、続いて工区の小堀委員長からは、「以前の田んぼは、100年前に人力で作った小規模なものでした。このような大規模な田んぼの整備は長年の悲願でありました。是非、この地のこれからの農業を受け継いでいただきたいと願っています。」と挨拶がありました。香取農業事務所からは、「皆さん、6年生の時にここの田んぼの風景が変わったことを記憶にとどめ、将来の地元を愛してほしい。」と話があり、それぞれの希望が込められた内容でした。

その後、各業者がそれぞれ役割を分担し、監督が4班に分かれた小学生へ、順番に①工事機械(バックホー)に乗りアームを動かし土砂を移動、②光波測量器械で測距を行い、③工区役員の誘導によるトラクターの運転と、④コンバインの運転を行う実際に動く体験教室で、貴重な体験の場を提供できました。



経営体育成基盤整備事業の進捗

香取農業事務所

それからもう一人、助っ人としてチーバくんが参上し、子供たちから大喜びの歓迎を受けました。最後はライスセンターで米ができる説明を受け閉会式、校長先生と児童代表のお礼の挨拶を受け、盛りだくさんのイベントは滞りなく閉幕しました。



さて事業の紹介ですが、採択前の準備に5年あまり費やし、最後は未同意者の解決には工区も大変な苦勞がありました。河川計画の調整、文化財の協議、調査実施と重なる難条件の中、ようやくでありましたが、区画整理工事163ヘクタールをなんとか3年計画で完了させ、用水対策に進めていく目安、予定が見えてきています。

営農も現在飼料用米を作付けしていますが、目標となるライスセンター活用も事業を探すのに苦戦中でありま
す。地元工区も経費ギリギリの中ですが運営を頑張っ
ております。

当地区は香取市(旧山田町)地内で、利根川の支流黒部川の上流部に位置し「麻績千丈ガ谷(おみせんじょうがやつ)」と呼ばれ貝塚、史跡が多く残されている地域です。



東日本大震災で大きな被災を受けた香取市の中
ではかろうじて受けなかったのは幸いでしたが、利
根川(黒部川)から取水する幹線用水管がダメージを
受け応急的な修理をした状態であり、今後の事業の
検討を行っているところです。

海上地区について

市原市海上地区は、千葉県市原市の北西部に位置し、二級河川養老川左岸の沖積平野に広がる水田地帯です。

平成8年度に採択を受けた再整備事業として経営体育成基盤整備事業が平成20年度に完成し、「千石耕地」と呼ばれる平坦な大地に米と麦のブロック・ローテーションを展開する優良農地です。

海上の農業の担い手である「海上担い手営農組合」が主体となり約55haの集団転作で小麦を実施し、その後作として大豆や蕎麦の作付けに取り組み、特に蕎麦については「海上そば」として産地化やブランド化を目指しています。

この地の農村環境を保全しようと平成19年度から「海上地域環境保全会」による「農地・水・環境保全向上対策」の地域活動がスタートしました。

定期的な農道・水路等の土地改良施設の保全・管理・補修はもちろんですが、農村環境の向上と学校教育の連携でコスモスや蕎麦の種蒔き・収穫など子どもたちとともに行い、食育活動の一環として活動の輪を広げています。



6年生児童による種蒔き

そば打ち体験



そば打ち実演



延ばして



こねて

そば打ち体験について

今年度地区内では、蕎麦を約13ha栽培しました。

その内0.5haは市原市立海上小学校の総合学習として6年生児童が作付けし、収穫した蕎麦で蕎麦打ち体験を行っています。

昨年8月30日に6年生児童14名が保全会のメンバーの指導を受けながら種蒔きに参加し、約20kgの蕎麦の種をまき11月下旬に予定していた収穫は、雨で作業ができなくなった児童の代わりに保全会のメンバーで行い、いすみ市のまちづくりグループ「夷隅の里 手打ちそばの会」に毎年製粉を依頼し、蕎麦打ち体験の講師も派遣してもらい、今年で4回目の開催となりました。

蕎麦打ち体験は12月6日に海上小学校家庭科室で行われました。当日は講師の実演のあと4班に分かれた児童14名と先生、保全会のメンバーたちで講師の指導を受けながら、こね・延ばし・切りの全工程を慣れない手つきでこなし、最後は打ちたての蕎麦をゆでて海上のそばを味わいました。自分たちの学校のすぐ傍らで育った蕎麦を自分たちで打って食することの喜びを一人でも多くの子どもたちが感じてくれたら大変うれしいことです。

昨年度、日本は大変つらい経験をしました。

遠くの地にいる私達も一緒になって「がんばろう」と気持ちを一つに、日本の海上^{うなかみ}に生活するものとして、農村環境の保全・地域の活性化につながっていくことを願わずにはられません。



「農地・水保全管理支払交付金」について

千葉県農林水産部
農村環境整備課地域農業振興室

はじめに

平成19年度から始まった「農地・水保全管理支払交付金(旧農地・水・環境保全向上対策)」は、平成24年3月31日をもって第一期の対策期間が終了します。

千葉県では、農村の持つ農地や農業用水等の資源は、農業生産活動に欠くことのできないものであるとともに、洪水の防止や人々の心に安らぎを与える保健休養機能等の多面的な機能を持つ県民共有の財産であり、子や孫の世代に良好な状態で引き継いでいくことが必要と考え、これらを地域ぐるみで適正に保全し、適切な補修更新により長寿命化を図る「農地・水保全管理支払交付金」を、農村地域活性化の重点施策として位置づけ推進してきました。

現在、県内では43市町村において326の活動組織が「共同活動支援交付金」に取り組んでいます。平成24年度からはこの共同活動支援交付金の継続も含む、第二期対策が始まるのが昨年12月の国予算概算決定で発表されました。また、平成23年度から追加された「向上活動支援交付金」は、現在84組織が県内で採択の決定を受けていますが、この概算決定の中でも引き続き支援すると発表されています。

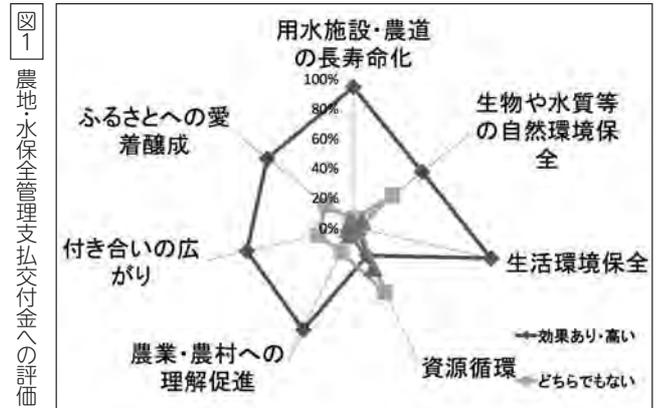
なお、概算決定時点での国予算PR版では、「共同活動への支援については、集落を支える体制の強化や仕組みの簡素化を図り、平成24年度～28年度までの対策として継続」することと、「広域で地域資源の保全管理を行うなどの多様な体制を整備しつつ、老朽化が進む水路等の長寿命化の取組や水質・土壌等の高度な保全活動を取組の内容に応じて、追加的に支援する」ことが次期対策のポイントとされています。

活動組織からの評価について

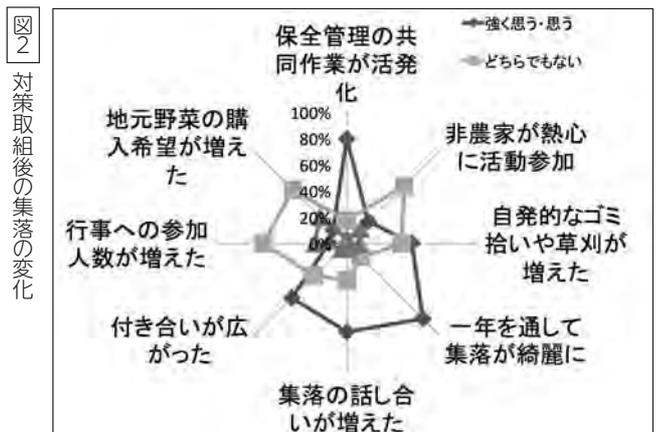
この農地・水保全管理支払交付金の地域での事業実施効果を確認するために活動組織に対しておこなったアンケートからは次の評価が得られました。

取組みに対する効果についての設問では、「水路やため池、農道や農地の機能長寿命化」と「生活環境の保

全」には90%以上の組織から「効果あり」との評価があり、対策の政策目標がほぼ達成されていることが判りました。また、「農村への理解」や「ふるさとへの愛着の気持ち」を育てるなどの副次的効果についても、70%以上の組織が「効果あり」と評価しています。(図1)

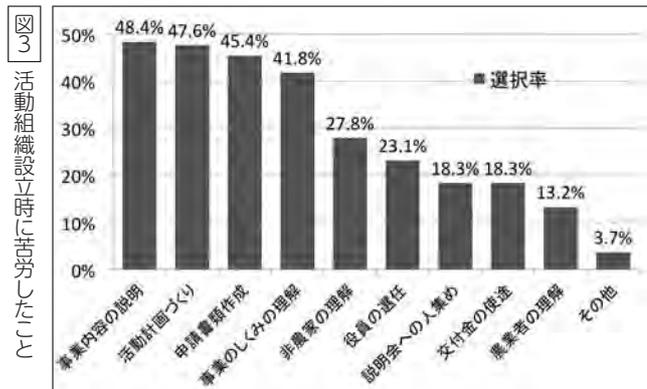


さらに、対策への取組み後の集落の変化の設問に対しては、80%以上の組織から対策の目的である「草刈りなどの共同作業」と「集落の景観美化」についての効果が発揮されたとの評価があり、共同作業に伴う「付き合いの範囲の拡大」や「話し合いの機会」も増加したとの評価を得ています。(図2)



一方で、活動組織設立時の苦勞についての設問では、「この事業の仕組みを理解」し「周囲に事業内容を説明すること」とする回答が多く、「書類や計画の作成等」についても、同様に「困難であった」との回答もみられ、制度の仕組みと提出書類が複雑であったため、事業

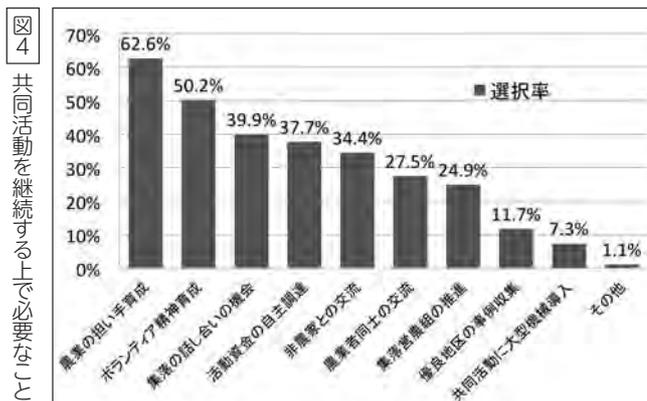
制度の簡略化を求める意見もありました。(図3)



これらの回答から、「農地・水保全管理支払交付金」については活動組織の多くが事業に取り組んだ効果を実感しており、制度の簡素化という課題はあるものの、高齢化・混住化の進む農村地域の活性化と農村資源の保全に高い成果を上げたものと考えます。

次期対策に向けた県の方針について

アンケートでは、5年間の対策終了後について交付金の有無にかかわらず「共同活動を継続する上で必要なことは何か」も伺いました。最も多かった回答は「農業の担い手の育成」であり、次いで、「ボランティア精神の育成」、「話し合いの機会を増やす」、「活動資金の自主調達」の回答でした。(図4)



県では、これらの活動組織の第一期対策に対する評価をふまえ、より一層の農村環境向上と、国民共有の財産である農地や農業用水などの資源の適切な保全のため、第二期対策実施に向けた基本方針の策定作業を進めています。

具体的には、共同活動の実施による農地・農業用水等の適切な保全と集落内の活性化はもちろんのこと、より高度な農地や環境を保全する活動への取り組み

及び将来にわたる地域農業振興のための様々な課題の解決に取り組んでいただきたいと思います。

「農地・水保全管理支払交付金」と耕作放棄地対策について

ところで、農村地域を取り巻く課題として全国的に問題となっている耕作放棄地については、雑草の繁茂の原因となるだけではなく、イノシシなどの鳥獣害の温床となるとも言われています。

千葉県では平成21年3月に「千葉県耕作放棄地対策基本方針」を策定して様々な対策を行っていますが、農地・水保全管理支払交付金でも、遊休農地の保全管理等による耕作放棄地発生の防止活動が各地域の活動組織により実施されています。

現在までのところ(23年末)、県内の活動組織が市町村長と締結した協定の中で、5年間「草刈りなどや害虫駆除を適正に行い、耕作可能な状態に」管理とした遊休農地や耕作放棄地(以下、耕作放棄地等)の合計面積は、約210haと報告されています。

そのうち営農再開までつなげた面積は44ha。景観形成等の保全管理を行っている面積は166haです。

高齢化、兼業化、不在地主化で遊休農地となってしまう場合、優良な農地として維持管理することは個人ではなかなか困難です。一方で、放置されたままだと周囲の優良な農地への雑草繁茂の原因や鳥獣害の温床、交通事故等につながることも懸念されます。

このような状態の農地が集落内にある場合には、自治会などで検討の上、農地・水保全管理支払交付金を活用した保全管理活動に取り組んでいただきたいと思います。

おわりに

千葉県では、第二期対策の「農地・水保全管理支払交付金」についても農村地域活性化の重要な施策に位置付け、耕作放棄地対策や有害鳥獣対策の補完的な施策として、他の農業振興施策と関連させた事業推進を図ってまいりますので、ぜひ皆さんの地域でも第二期対策を活用して地域の活性化及び農業振興にお役立て下さい。

ちば水土里ネット女性の会では、去る平成23年12月16日(金)と17日(土)の2回に分け現地研修が実施され、今回の大震災にて被害に遭われた香取、旭方面を視察しました。

当日は天候に恵まれ、県内各地区より総員24名参加のもと、香取市役所に集合し、会議室において行程の説明があり、最初に香取市役所庁舎周辺を視察し、その後3台の車に分乗し石納野間^{こくのうのま}谷原^{やわら}土地改良区(香取市)の液状化による噴砂と地盤沈下による被害の場所へ向いました。

大震災から9ヶ月が経っているにもかかわらず、途中、市内の道路は波打っている場所や、傾いた民家や屋根にブルーシートがかけられている所も有り、被災の爪痕が随所に見受けられ、地震の威力を物語っていました。



石納野間谷原地区は広々と整備された田園地帯でしたが、近くに進むにつれ農道が沈下により田と同じ高さになっている所や、また、一面砂だらけの田に噴砂により噴き上げた穴があり、用排水路や暗渠等全て破壊されてしまい、今年は作付けが全く出来なかったとの説明を受け、農家の方々の無念さを思い胸が詰まる思いでした。



次に、香北土地改良区(香取市境島)の境島用排水機場に向いました。こちらの施設も液状化による地盤沈下で被害を受けていました。

また、香取市立新島中学校では、校庭が液状化し、校舎も地震により危険な状態のため、現在はプレハブ校舎での授業を強いられており、地震は子供達の学校生活にも影響を及ぼしていました。

午前中の最後は、伊能忠敬で知られ小江戸の風景を残す佐原へ向いました。重厚な蔵造りと川の風情が相まった景観もやはり地震の被害は残っており、観光地にも影響を及ぼしていました。

その後、香取市内(旧山田町)にある風土村にて遅い昼食(13時頃)となりました。風土村のレストランは、地産地消の食材を使った料理がバイキング形式の食べ放題となっており、午前中の重く沈んだ気持ちも美味しい昼食に出会い気分転換することができ、心新たに午後は旭市へと向いました。



農業施設被災地研修会に参加して

天羽土地改良区 大野 志津子



16日(金)に参加した会員の方々

大震災から10ヶ月経ちましたが、今回の視察研修を通じ、まだまだ千葉県内でも大変な状況が続いていることを、直接見て、聞いて、そして考えることが出来ました。

あらためて、被災された方々に心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

旭市(旧飯岡町)では、津波により破損した橋梁、河川、海岸沿いの土台だけ残された民家等があり、津波の威力は一瞬にして人々の生活を奪ってしまったのだと強く思い知らされました。



17日(土)に参加した会員の方々



★★ 事務局から ★★

2011年は、東日本大震災の被災土地改良区の関係者の皆様にとって大変な1年でした。

震災のあった日は、千葉県では、水稻の作付け準備をしている或いは始めようとしている時期で、営農を諦めなくてはならないのかと悩んだ農家の方も多かったと聞いております。しかし、農家の方々や土地改良区の役職員の努力で応急処置を実施し、かなりの地域で営農することが出来ました。

今回、女性の会で東日本大震災による県内の被災地域を視察しましたが、土地改良施設は日頃行っている管理が大事で、普段からどのような状況かを知っておく必要があると感じました。また、施設の老朽化に伴う補修のためだけでなく、今後起こるかもしれない震災のためにも、普段から資金の積立が必要ではないでしょうか。一般家庭でも同じことと思いますが、日頃の準備と心構えをお願いしたいと思います。

新年の抱負



本年もよろしく
お願い申し上げます

年男あつまれ!

2012年の干支は^{じん しん}壬辰。

「壬」は「妊」の意味で女性の懐妊の姿であり、草木の内部に新しい種子が生まれた状態を表しているといわれております。また、人に当たる人偏(にんべん)を付けると荷を担う・役目について事に当たるという意味になり、任用・任命・任務などの熟語が生まれてきます。

「辰」は手で崖石を動かす象(かたち)としているという説などがあり、手偏を付けた「振るう」意味で、陽気が動き草木が伸長する状態を表しております。また、下に虫を付けた「蜃」は貝の大蛤の象で、固く殻を閉じていた大蛤が陽気に連れて殻を開け中身を出して動く状態を表し、海中で動く蜃気楼を起こすといわれています。

動物で表すと十二支の中で唯一の想像上の動物の「龍」であり、龍は天に昇り地に下ると言われ、今まで内に蔵されていた或いは紆余曲折していた陽気・活動力がぐっと伸びて活発に震動するというものであります。

干支の中で唯一の架空の生き物であり神の使いとしてあがめられている十二支辰年の性格といえば闘争心が強い星として知られています。

非常に強い競争心を持っており、どこまでも闘いつづけようとする。義侠心があるため、目下の人の面倒をよく見るタイプです。その結果、目下の人に頼られる傾向にあります。

新年の抱負

技術部事業計画課事業計画係
篠原 裕次(1964年生まれ)



新年明けましておめでとうございます。

初めての年男の時は、福島県柳津町にある福満虚空藏尊圓藏寺に両親と十三詣りに行ったことを思い出します。そのあとの辰年は、さっぱり記憶に残らないものでした。

私は、働き始めてからの年越しは、毎年実家にて過ごしております。今年の年末年始は数年前より始めた東北三十六不動尊霊場詣りを年末に福島、秋田の8つの霊場にて、納経、勤行し、大晦日には菩提寺へ行き越年の護摩供に参加し、初春の開運招福などを祈願してきました。また、今年は鹿島神宮で行われる「大寒褌ぎ」に参加する機会を戴くことができ、記憶に残る48歳の年となること間違いなしと確信しております。

新年を迎え、無事に4回目の年男を迎えることができました。48歳は初老をとっくに過ぎ、人生の折り返し地点も過ぎ、そろそろ様々なことを考えなければならない年代だと考えております。

「大寒褌ぎ」では、日常生活の中で知らず知らずのうちについてしまった罪穢れを祓い、自らの精神に喝を入れ、家族や職場の皆さんの健康を祈念してまいりました。

最後になりましたが、本年は穏やかな年でありますようにお祈り申し上げます。

新年の抱負

技術部事業計画課事業計画係
上林 友和(1976年生まれ)



あけましておめでとうございます。

昨年の大震災により被災された方、また災害復旧に携わった方におかれましては多忙な日々を送られたかと思います。この場をお借りいたしましてお見舞い申し上げます。

私事でございますが今年で36才になるということで、無事に3回目の年男を迎えることが出来ました。月日の流れるのは早いもので、右も左もわからず現場を走り回っていた頃が懐かしく思います。家庭では2番目の子供(長男)も今年から小学校に入学、3番目の子供(次女)は今年2才となりいろいろ言葉を喋るようになり、顔を見ると「パパ」と呼んでくれるようになりました。用事が無くても「パパ」を連発する時もありますが、負けずに返事しようと思います。また、結婚10年目となる年でもあり、何かと楽しみが多い年になりそうです。

仕事では、まだまだ未熟な部分もあり皆様に迷惑をおかけしておりますが、少しでも技術の向上を目指して努力しようと思います。

本年もよろしく願いいたします。

新年の抱負

会員支援センター支援係
田井 亮行(1976年生まれ)



新年明けましておめでとうございます。

早いもので三度目の年男を迎えました。

私は毎年、年末年始を朝から飲んで食べて寝てを繰り返すガラガラ?正月を過ごしていますが、例年1月2日だけは必ず観ている番組があり、それだけは、何があっても欠かしていません。それは「時代劇」で7時間(16:00~24:00)通しの大作です。この年始の時代劇だけは妻や親戚に何を言われようと観ており、今年「忠臣蔵」で私の最も好きなものでした。

忠臣蔵の内容は、皆様も知っていると思いますが、要は仇討ちです。

『江戸時代中期、元禄14年3月14日、江戸城内の松の廊下にて赤穂藩藩主浅野内匠頭が、高家肝煎・吉良上野介に切りつけた刃傷沙汰に端を発し、加害者とされた浅野は、即刻切腹となり、被害者とされた吉良はお咎め無しとされた。その結果を不服とする家老大石内蔵助をはじめとする赤穂藩の旧藩士47人(いわゆる“赤穂浪士”)による、元禄15年12月14日の本所・吉良邸への討ち入り及びその後の浪士たちの切腹までのお話です。』

浪士達が藩主への“義”を重んじて行動したとおりとまではいきませんが、私も仕事上で付き合う方達への“義”を重んじて今後の職務を遂行していきたいと思っています。

復興・復旧対策

23年度の3次補正予算で下記の事業①が決定され、復興・復旧対策として支援されます。また、4次補正で②、③が予定されております。詳しくは、下記までお問い合わせください。

① 被災土地改良区復興支援事業

被災により経常賦課金の支払いが困難な農家の迅速な営農再開を図るため、被災土地改良区の機能回復に対する支援を実施します。

問い合わせ先：水土里ネット千葉 管理指導部 043-241-1728

② 農業体質強化基盤整備促進事業

畦畔除去等による区画拡大や暗渠排水等の農地の整備、老朽施設の更新等の農業水利施設の整備をきめ細かく実施します。

③ 東日本大震災復興交付金

復興交付金の創設により、被災地方公共団体が自らの復興プランの下に進める地域づくりを支援し、復興を加速させます。

②と③の問い合わせ先：各農業事務所の基盤整備部指導管理課(千葉と東葛飾は基盤整備課)

第15回

千葉の水回廊ウォーク

& 疏水百選 印旛沼ウォーク

のご案内

花見川―新川―印旛沼の水回廊は、「美しい日本の歩きたくなるみち500選」の道筋です。印旛沼は、私たちの生活や国土を潤す「みずのみち」として先人によって築かれたもので、日本の「疏水百選」に認定されました。この悠久の道につながる水辺、桜、花木、水田風景、野鳥の声など心地よい自然に触れながら歩きを楽しみましょう。

1 実施日 平成24年4月1日(日曜日)雨天決行

2 歩行内容 (雨具、帽子、昼食、健康保険証などは各自ご持参ください。)

	40kmコース	20kmコース	10kmコース
集合場所	成田市中台運動公園 相撲道場前駐車場 (JR成田線成田駅 徒歩10分)	高崎川南公園 (JR総武本線佐倉駅 徒歩10分)	新検見川公園 (JR総武本線新検見川駅 徒歩2分)
集合時間	午前8時	午前9時	午前9時30分
ゴール	大和田排水機場(京成大和田駅徒歩12分、勝田台駅徒歩15分) ◎受付は11時30分～17時迄		
歩行方法	コース地図と矢印標識を見ながら各自のペースで歩く自由歩行です。 なお、10kmコースでは、周辺の農業施設等の解説を聞きながら歩く、ガイド付き団体歩行の予定もあります。		

※今年は、各コースともゴールが大和田排水機場になりましたので、コースによって集合場所が変わります。注意してください(東日本大震災の影響でコースが変更になる可能性があります)。

★コースについては、地図を参照してください。

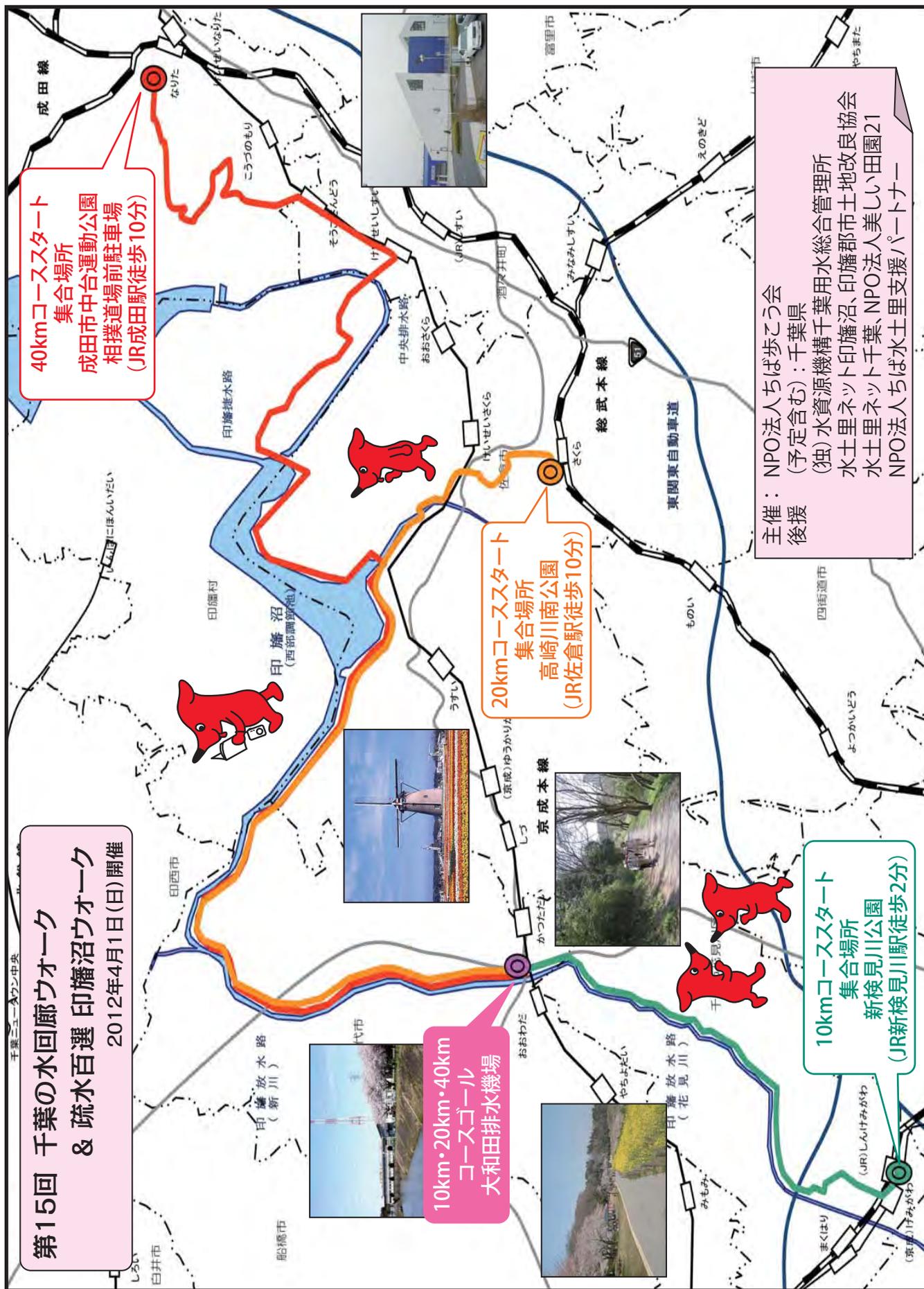
★大和田排水機場では、農産物の販売(水土里ネット印旛沼)や(独)水資源機構千葉用水総合管理所主催の「さくら祭」が行われ、昼時に豚汁のサービス(数量限定)などが予定されています。

3 参加費 500円(小学生以下無料)(コース地図、完歩証、傷害保険料、飲料水、農産物など)

4 参加申込 当日、集合場所で受付します。
水土里のガイド付き団体歩行の受付も当日、集合場所で行います。(先着50名様)

5 免責範囲 参加者は事前に健康診断等を受けて、万全の体調のもとに、参加してください。
万一事故が発生した場合、主催者は保険による適用範囲以外の責任は負えません。

6 問合せ先 NPO法人ちば歩こう会 TEL 080-3421-0267 (担当 田口)
水土里ネット印旛沼 TEL 043-484-1155 (担当 小倉)
千葉県印旛農業事務所基盤整備部
TEL 043-483-1131 (担当 高見沢)
NPO法人美しい田園21 TEL 090-3347-3932 (担当 伊藤、福士)
TEL 080-5481-0915



謹賀新春

本年もより一層のご指導ご支援を
賜りますようお願い申し上げます。



千葉県土地改良事業団体連合会

会

菅谷 健一

副

会長 八角 文雄

副会長
常務理事

豊川 忠幸

外

役員一同



水土里ネットちば 293号 (平成24年1月30日発行)



発行

水土里ネット千葉 (千葉県土地改良事業団体連合会)
〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5
TEL.043-241-1711(代)/FAX.043-248-2563(代)

印刷

株式会社ニッセイアド
〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3
TEL.043-206-7752/FAX.043-206-7753